



- 特集 - 人が元気に！まちが元気に！

活性化に取り組む

◎今号で紹介する団体等



新型コロナウイルスが発生して約3年。コロナ禍は人や地域の交流を分断し、社会経済活動を著しく低下させました。

そんな中でもできることを行い、地域やまちを再び活性化させようと取り組む動きが広がっています。

コロナはいまだ収まっていません。これから感染が再流行する不安もあります。それでも地域や学生、ボランティア団体などの活動から、人やまちのにぎわいが着実に戻りつつある現状を紹介します。

問市地域活力推進課 ☎ 0994-31-1147

◎ 10月に市内で行われた地域の取り組み

- 10月1日(土)
 - 大阪大学と連携した新川町防災フィールドワーク **1 2**
- 10月8日(土)
 - 吾平中学校での「吾平の神話」授業 エクサイル フサ
 - EXILE USA 氏が参加した高隈稲刈り行事 **3 4**
- 10月16日(日)
 - ツール・ド・おおすみサイクリング大会
 - 祇川町八月踊 **5 6**
- 10月23日(日)
 - 第27回大隅電神大祭 **7**
 - 大隅湖レイクサイドフェスティバル2022 **8 9**
 - 西俣小学校創立100年記念米作り体験事業 **10 11**
- 10月30日(日)
 - 上祇川町八月踊 **12 13**
 - 高校生レストランオープン

人口減少の問題や年々増加する大規模災害に加え、新型コロナウイルスの感染拡大により社会は変容を迫られました。行動制限の中で急速に発展した高度情報化は、隣人や地域のとのつながりをこれまで以上に希薄なものとし、地域が抱える課題や市民ニーズも一層複雑化・多様化してきています。このような社会情勢の変化を受けて、自分たちでは解決できない課題も増えてきました。

しかし、近年では自らが持つ能力やノウハウを活用しながら、主体的にまちづくり活動に取り組む個人や団体も増えてきています。コロナ禍で大規模な活動は自粛を

迫られたものの、「自分たちで出来ることは自分たちの手で」という気運が徐々に高まってきています。

住民主体のまちづくりだからこそ、地域への「想い」が地域住民や周囲を巻き込む力になります。地域活性化の力になりたい、地域の魅力を多くの人に伝えたいという想いに寄り添い、まちづくり団体が中心となって、地域課題や市民ニーズに対応する取り組みが進められています。人が元気になるれば、まちも元気になる。年齢や性別、職業の異なる一人ひとりの理想のまちづくりに向けて、話し合いや実践を重ねる取り組みが各地域に新しくにぎわいを生み出しています。